
世田谷区立郷土資料館

資料館だより

No.60

2014.3

—史料紹介—

木母寺旧蔵「梅若丸画像」の模写絵について



大場家所蔵絵画資料61・部分（大場代官屋敷保存会蔵）

住持
 六師
 道人
 度長十二祀
 美留
 在梅是紅
 洞出
 陽四何
 聞
 社
 紅
 不
 行



大場家所藏絵画資料61・全体

前頁の写真は、梅若塚伝説で有名な木母寺（現・隅田区堤通）の旧蔵品「梅若丸画像」の模写絵である。この模写絵は、大場家 12 代の当主・家四郎景福がその部屋住時代に、絵画学習の参考とした粉本類（以下では「大場家所蔵絵画資料」と表記する）の中の一枚として、大場家の蔵に秘蔵されていたものである。この「大場家所蔵絵画資料」については、既に整理・調査が済み、1997 年、報告書も刊行されている^{※1}。しかし、くだんの模写絵については、調査が終了してもなお如何なる性格のものであるのか分からず仕舞で、報告書には、ただ「若衆図」として載せてある。その後すぐに、これが木母寺の旧蔵品「梅若丸画像」を模写したものであることが判明したが、発表する機会を失っているうちに、17 年という歳月が経過してし

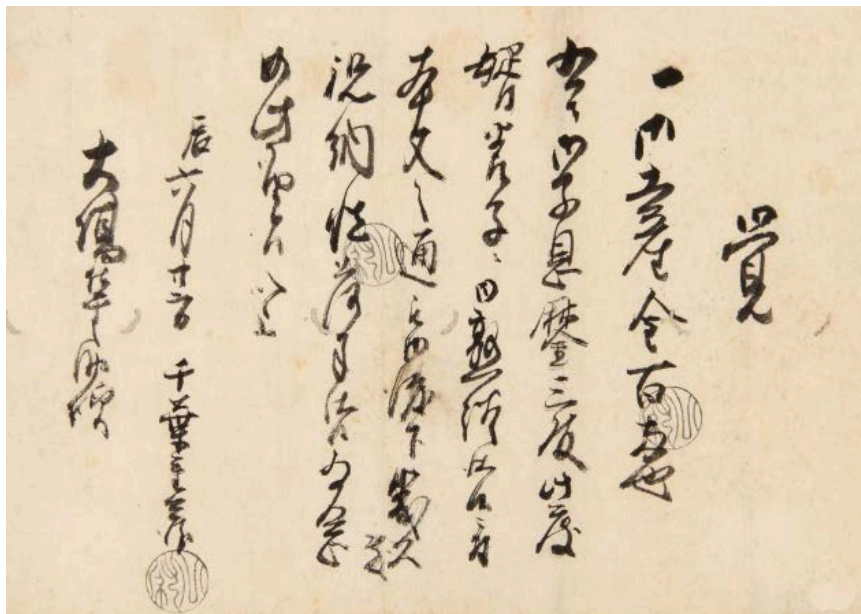
まった。

そこで、本稿では、遅ればせながら、この「梅若丸画像」の模写絵につき、筆者の知見を述べることにしたい。

この模写絵の右下には「文齋書画記」という印が押されている。全 178 点におよぶ「大場家所蔵絵画資料」のうち、その 60 パーセント近くを占める 103 点に同じ印が認められる。

これらの印文にみえる「文齋」とは、粉本類の元の所有者の号で、幕府御家人・千葉重兵衛直胤（号を文齋・存古堂といった）がこの文齋に比定されると考えられている^{※2}。

千葉重兵衛は、家四郎の父・隼之助の従兄で、天保 15 年（1844）、家四郎の実兄^{歴三}（隼之助



※3
覚

一 御土産金百両也

右者御子息^{歴三}殿此度

婿養子ニ御熟談仕候二付、

本文之通、被御渡下幾久敷

祝納慥落手仕候、為念

如此御座候、以上、

辰六月廿二日 千葉重兵衛

大場隼之助様

三男)を婿養子に迎えた。幕府大番組与力を勤める傍ら、国学者・塙保己一の門に入り、多くの考証随筆をものしている。

その著作には、『宇久比須考』、『日本類函』、『存古堂日抄』、『百千鳥考』、『博寿選』、『声音便覧』、『人物名林』、『陸奥国郡私考』、『海獣私考』がある。これらの考証随筆を執筆するに際し、その典拠となる資料を写し取って貯えていたらしく、『宇久比須考』には、自ら写生した「宇久比須之図」(写真1)と、「舜拳(南宋の画人・銭選)鶯之図」(写真2)を摸した図を挿絵として載せている。重兵衛は、養嗣子の弟が画業を志していることを知り、これらの模写絵を快く譲ってくれたのであろう。



写真1



写真2

さて、話を「梅若丸画像」模写絵の方へ戻そう。この模写絵が作成された時、原画の擦れが酷く、賛については判読不能な箇所が多々ある状態だったらしい。模写の画賛については、欠字や誤写と思しき字が散見される。

(往)
伝道健古吉田氏之少児於

□□□倭歌之争、故降

不意患風 []

情哉□□□其故墳之□□

□□追浄停有□車

社僧絵少年之□□□

賛語陋書之

聞説当時一少児、隅田河畔捨於生涯、幽然美貌今猶在、梅是紅顏柳是眉、

慶長十三祀歲舍戊申春之仲良辰

(増寒松)
杏□□□道人

□信筆

もともと、幸いなことに、『新編武蔵風土記稿』^{※4}にも、この画像と賛の写し(これにも誤写・判読不能箇所あり)が載っており、絵についての知見も述べられている。これと、くだんの模写絵とを比較すれば、より詳しいことがわかる。

寛永元年僧寒松か記せし梅若丸の賛序あり、(中略)

隅田河梅若賛并序

洛陽北白河有吉田少将者、不知其姓氏、不記其年代、有一子曰梅若丸、(中略)塚傍有社僧之房、曾月卿遊此、詠歌之余、扁之木母寺、其主人曰尊海、予往載慶長戊申之春、偶遊此境、訪遺塵、主人出其兒之画像求賛語、陋一掃而去、後十七年、春閏正月、予留連江城之幕府、一日木母寺之尊海老持一軸来、從容謂曰、其兒之画像已古、而容貌不分明、爰有遊客、一人者洛陽人未重、一人者江州人善政、同其心戮其力、進衆縁命丹青之妙手、新令画少年淡粧之像、其画已成矣、願書此兒之行狀於此図像之上、而賚焉、為欲伝此事跡於万代不朽也、予感此誠心、不獲黙止、粗記古老之言以為序、其賛曰

伝道京城一少児、隅田河畔捨生涯、幽然美貌

今猶在、梅是紅顏柳是眉、

寛永元年龍集甲子穀雨後三日建長龍派禪
珠杏壇野叟七十六歳書于芝阜寒松軒下

右寒松の記は足立郡長徳寺に伝ふる寒松稿の内より抄す、是此寺に伝ふべきものなれと今は失せり、

(中略)

梅若丸画像一幅 画人を伝へず画上の賛も長徳寺の
住持寒松か筆なり

画像一幅 此画像は土佐光信の筆なる由伝れと、
恐らくは前に出せる寛永元年僧寒松
か記にいへる新造の像なるへし、紙中粉色の類前の
像よりもや、後年のものとみえたり、

この記事によれば、当時、木母寺には、二幅の「梅若丸画像」があり、そのいずれにも僧・寒松の賛があったという。

また、記事は続けて、やや新しく見える幅について、「土佐光信筆と伝えられるが、恐らくこれも寛永元年に作られたものに違いない」と推測している。この二幅の絵の賛を書いた寒松とは、足立郡芝村（現・埼玉県川口市）の古刹長徳寺の中興開山・龍派禅珠のことで、寒松はその号である。さらに、『新編武蔵風土記稿』には、龍派禅珠の著『寒松稿』から引用した「隅田河梅若賛并序」の全文を載せてある。これによると、慶長13年（1608）春、木母寺を訪れた龍派禅珠は、同寺住持尊海から「梅若丸画像」の賛を書いてくれるよう頼まれ、揮毫した。それから17年を経た寛永元年（1625）、たまたま江戸にいた龍派禅珠のところに、尊海が訪ねてきて、この年新調した「梅若丸画像」にも賛を書いてくれるよう依頼した。その需めに応じて龍派禅珠が尊海に書いて与えたものが「隅田河梅若賛并序」なのである。

一方、模写絵の年紀は、「慶長十三祀歳舍戊申春之仲良辰」となっているので、こちらの方は新旧二幅の画像のうち、旧い方の「梅若丸画像」ということになる。その賛にある七言絶句を訓読すると、

伝に道う 京城一少児
隅田河畔に 生涯を捨つ
幽然たる美貌 今猶お在り
梅は是れ紅顔 柳は是れ眉なり

といったことになろうか。

一方、「隅田河梅若賛并序」すなわち、寛永元年作成の画像の賛は、これとほぼ同様の内容となっているが、起句が「聞説当時一少児きくなら／聞説く当時一少児」になっており、新旧の幅で字の入れ替えのあったことがわかる。

ところで、『新編武蔵風土記稿』の記事では、新しい幅の方（寛永元年作成）を、伝・土佐光信筆としているが、寛永元年作の画像が土佐光信の筆と伝えられるわけではない。当然、旧い画像の方を伝・土佐光信筆としなければならない。もっとも土佐光信は十五世紀末頃の画師なので、慶長13年作成のこの画像の作者であり得る筈はない。そこでもう一度、模写絵の賛の款識（賛右端部分・写真3）に注目していただきたい。

「□信筆」とある。おそらく、この絵を書いた画師は、姓を書かず、ただ、名のみを署したのであろう。また、擦れて見えなくなった「信」の上の字は、「光」であった可能性が高い。

そこで、寺では、この「光信」を土佐光信と思い込んでその様に伝えたのではなかろうか。では、この「光信」とは一体誰なのであろうか。

筆者は、それを「狩野光信」ではなかったかと考える。狩野光信は、永徳の長男で、はじめ豊臣秀吉に仕えたが、秀吉没後、徳川家康に仕えることとなった。常は京都に居住していたが、時折、幕府の求めに応じて江戸へ下向し御用を勤めた。

「梅若丸画像」が成った慶長13年の春、狩野光信は江戸に在った。その前々年10月、江戸に召されて幕府の御用を勤めていたのである。同13年の6月4日、帰京の途中、桑名の旅舎で客死した※6。したがって、この絵の作者が、狩野光信であれば、すべて辻褃があう。それはともかくとして、本模写絵は、木母寺旧蔵「梅若丸画像」の全容を唯一今に伝える貴重な絵画資料であるといえよう。

注

※1 『大場家所蔵絵画資料』（世田谷区立郷土資料館1997年刊）。



写真3

- ※2 鈴木泉「《解説》大場家所蔵絵画資料」(前掲載報書所収)。
- ※3 『世田谷代官大場家文書』0D-4。
- ※4 巻之二十一 葛飾郡之二。
- ※5 埼玉県指定文化財。現在、埼玉県立博物館に委託。なお、『埼玉叢書 七』(国書刊行会 1970年刊)にその印影が収録されている。
- ※6 『古画備考』三十六 狩野譜。

その他の参考文献

『大場家歴史』(大場代官屋敷保存会ほか 1983年刊)
『隅田川文化の誕生—梅若伝説と幻の町・隅田宿—』
(すみだ郷土文化資料館 2008年刊)

(文責 当館学芸員・武田庸二郎)

平成25年度 特別展

「1955-64

写真で見る高度成長期の世田谷」

アンケート結果

回答数 98 (期間中入館者数 4,291人)

1. お客様自身についてお聞かせください。

①来館は何回目ですか。

初めて 38 2回以上 59 無回答 1

②この展覧会は何で知りましたか。(複数回答あり)

区のお知らせ「せたがや」で 17

看板・ポスターで 25 チラシで 17 (当館 10

他館 4 図書館 5 その他区施設 3 掲示板 4

三茶 3) 区のホームページで 6 知人・友人・

家族の紹介 12 学校からの紹介 1

フェイスブック・ツイッター等 SNS で 1

その他 21 (ケーブルTV 2 東急HOT ホット

3 新聞 6 講座等 4) 無回答 1

③本日はどなたといらっしゃいましたか。(複数回答あり)

一人で 76 家族と 16 友人と 6

その他 1 (ゼミ)

④お住まいはどちらですか。

世田谷区内 68 その他東京都内 14 (杉並 3・

太田 2・調布 2等) その他 16 (川崎 5・横浜

4・埼玉 2・小田原 1・神戸 1 無記入 3)

⑤年齢 10代以下 1 20代 6

30代 6 40代 15 50代 31

60代 20 70代 12 80代以上 7

⑥性別 男 65 女 22

無回答 12

2. 展覧会をご覧になった感想をお聞かせください。

①展示の内容に満足いただけましたか。

大変満足 43 満足 45 やや不満 8

不満 0 無回答 2

②よろしければ上記の答えを選んだ理由をお聞かせください。

◎「大変満足」・「満足」を選んだ理由

●貴重な資料が写真で見られて良かった。(区内 40代男性) ●まだ幼少のころをなつかしく思い出させていただいた。(区内 50代男性) ●昔の様子が知れてよかったです。あたたかくよかったです。(調布市 20代女性) ●毎日の生活はあたり前のことなので記録に残らない。フィルムも高かったので写真もあまりとらなかったのによろしく「街」の景色が表現され、また号外、電気製品もいい資料。(小田原市 60代男性) ●写真とは安易かと思ったが、これだけあると結構見ごたえあり。新聞や家電品も展示のアクセントになっていてよい。できればもっと世田谷ゆかりのものであるとよかったです。(区内 50代男性) ●前回より手作り感があり、グッドです。(川崎市 60代男性) ●駒沢で生まれ今も駒沢です。2016～2019の写真に涙が出るくらい感動しました。(区内 60代男性) ●写真の解説が良かった。(区内 50代) ●過去の写真に興味があり、それらを見ることができたから。(区内 30代男性) ●子どもの頃の懐かしい風景と今の違いが興味深かった。(区内 50代男性) ●昔なつかしい写真が多く、昔の世田谷区を想像できた。(区内 40代) ●幼時から成人まで世田谷(梅丘)で育った(丁度写真の時代)ので、非常に懐かしかった。(神戸市 60代男性) ●生活する人や生きものの姿や道具など、当時の暮らしの様子が伝わってきました。父の記憶もいきいきとよみがえり、会話が弾みました。BGMも当時の歌だそうで、音楽からも楽しめたようです。貴重な時間になりました。ありがとうございました。(区内 50代女性) ●S36年代という特定の時期の写真をこれだけ展示されると圧巻です。(大田区 40代男性) アサヒグラフをなつかしく拝見しました。(区内 80代男性) ・自分の住んでいる地区の昔の風景を見るのは興味深かった。(区内 30代女性) ●充実した内容でした。(区内 30代) ●越えてきてこの辺のことをよく知らなかったけど今回この土地がどういう歴史を持っているのか知れたから。(区内 20代女性) ●子供の頃の思い出に浸れた。(杉並区 50代男性) ●今住んでいる地の昔の姿を知ることが出来、興味深かったです。(区内 30代女性) ・小学校に集まる子どもや母親達の姿が今と変わらず感動した。何が違って変わらなかったのか、写真は時代を記録してくれるのだと思った。(区内 30代女性) ●今の皇后様の御成婚の時、初めてカラーテレビをみましたが、S34年の時代を再確認しました。有難うございました。(区内 70代女性) ・模型で再現したくなる。(都外 40代男性) ●子供の頃の世田谷の風景が残っていると共に歴史を感じた。(区内 60代女性) ●世田谷には、昭和 57年から住みはじめました。いまの世田谷から想像できない当時の世田谷がみられ、満足しました。生活の様子がよくわかりました。(区内 50代男性)

●世田谷に関する資料が多数有るのに驚きました。懐かしい写真を見て感激です。(区内70代男性) ●当時の写真と新聞記事の展示で、臨場感があった。(さいたま市20代) ●Alwaysを生でみた感じがよかつきと子供の頃どこかでみたふんいきがあつてよかつたです。(区内40代) ●両親がよかつきがり、とてもよかつた。写真集を購入しました。1000円のセットは値打ちです。(区内40代) ●BGMの懐メロが展示にマッチして大変よかつた。(区内80代男性) ●街の様子がドンドン変わって行く今日、立ちどまって以前あつた様子を振り返ることの大切さを感じさせられました。(区内70代女性) ●展示品の多さと時代考証的展示法(川崎市70代男性) ●昭和35年生まれ。梅丘に長いこと住んでいたので何かとよかつかしい。(大田区50代男性) ●いろいろな発見などができた。(区内10代男性) ●地区別にまとめられている。(横浜市60代男性) ●写真集の内容もとてもよかつた。(区内20代女性) ●昭和30年代は自分は生まれていないので、当時の様子を知ることができた。(区内40代男性) ●ちょうど自分たちの生まれた時代で、その時の流れ、世の中のめまぐるしい変化に思いをはせることができたから。(区内50代女性) ●55-64の間の移り変わりも写真を通じてよかつた。(区内30代女性)、など多数。

◎「やや不満」を選んだ理由

●駅以外の街並みの写真を知りたい。(区内60代男性) ●ガラス越しの写真は目と写真が離れているので説明文が読めない。(清瀬市70代男性) ●以前からの写真が多数あり、もう少し今まで展示したり発行した物以外の展示を期待していたので、少し残念。(区内50代) ●点数も多いのだけれども、写真作品展に比べて、つまみずぎの感があります。(都外50代男性) ●写真のポインがずれている。(区内60代男性) ●地図の表示がないので、具体的にどこかわからず。手を抜かないで。アサグラの女優が誰かわからの・・・(以下判読不明)(区内50代男性) ●学校のところで、桜小学校、桜木中学、等が書かれない。(区内70代女性) ●自分の過ごした豪徳寺・上町周辺の写真が少ない。(横浜市50代)

3. その他、ご意見、ご感想があれば、お聞かせください。

●世田谷の地形のジオラマも良い。また来たい。65年以降も10年毎にやって欲しい。(区内40代男性) ●昔の雑誌のページをめくれるようになったらもっとおもしろいかなあと思いました。(調布市20代女性) ●昭和27年～37年興沢生まれ、育ちなので今回の企画は涙もの。ただのノスタルジーではなくもうあまりおもかげもない、郊外だった世田谷のいい記録と思う。小学生に授業として見せるといい。(小田原市60代男性) ●祝日休館というのは信じられない。11/23ムダ足になってしまった。こういうことがないようにしてほしい。昭和26、37の写真が移管されたようだが、この後はどうなるのだろうか？区役所にあるのだろうか？移管されるのだろうか？と考えると1965以降はどうなるやら？計画的に集めていかないと案外残らないのでは？キグする。(区内50代男性) ●生まれ育つた時期と世田谷の復興発展が同時期であり、このような記録をまとめていただき厚く感謝申し上げます。作成に携わった皆様に感謝致します。有難うございました。大切に保管し、次の代に渡し、申し送り致します。(川崎市60代男性) ●また違う写真で同じ年代の展示をやってほしい。(川崎市50代男性) ●もっと長期展示を。(区内70代女性) ●1945-54の写真品川用水の写真がありましたら、ぜひ見せて頂きたい。(区内60代男性) ●これらも同様の展示をして下さい。(区内50代男性) ●世田谷線のむかしもっとしゃしんでてんじしてほしい。(川

崎市40代男性) ●また、年代を変えて60～70年代もお願いします。(区内50代) ●終戦当時の写真があつたらよかつた。(目黒区80代男性) ●70・80年代の写真展もやってほしい。(区内30代男性) ●ガラスケース内の資料がやや見づらかつたです。(区内50代) ●貴重な数多くの写真、大事に！！(区内70代女性) ●図録、写真を(選別せず)たくさん載ってるのがうれしい。宝物になります。(区内40代男性) ●継続的に宜しくお願いします。(区内60代男性) ●現在写真との比較もあると尚よかつたと思います。世田谷区民でない者にとっては、50年のうちにどれだけ変化したのかイメージできるので。(大田区40代男性) ●次回の企画を楽しみにしています。(区内50代男性) ●結構な企画だと思います。(区内80代男性) ●昭和初期の風景・時代が大好きです。またこのような写真を見たい。(区内30代男性) ●なぜS36(1961)の写真が多いのでしょうか？せっかく番地が書いてあつても、今、どの辺りか分からない。番地まで入つた大きな地図を1枚貼っておいてくださるとよかつたです。(区内30代) ●館内に曲が流れているのが雰囲気が出てよかつたです。(区内20代女性) ●これは資料館とは直接関係ないが、自宅から直線距離4kmなのに、井之頭、京王、世田谷線と乗換えが面倒でバスがあればいつも思う。(杉並区50代男性) ●同様の企画をまたお願いします。(区内50代) ●昭和50年代、60年代の写真展があつたら是非来たい。(区内40代男性) ●こうしてみると古い新聞が生きているのを感じました。(区内70代女性) ●よかつたです。(区内60代男性・女性) ●母(87才)が入院しているので今日の展示の話をしてあげたい。また一緒に見に来られたら・・・と思います。(区内60代女性) ●世田谷がみられ、満足しました。生活の様子がよくわかりました。(区内50代男性) ●住宅地の発展(常設展にあります)をあわせて解説してとらえるとよかつたと思います。(調布市50代男性) ●又、定期的に展示会をしてほしい。(区内50代男性) ●有難うございました。友達を誘つて再度来館したいと思います。(区内70代男性) ●又、こんなイベントを開いて下さい。(区内40代) ●GHQ占領時代の世田谷・・・企画展(港区60代男性) ●もっと沢山の方に見て頂きたく、駅ポスターやチラシなどを多くするとよいのでは。せっかくなのでPRに力を入れて下さい。(区内40代) ●いままでの展示に比べ資料も豊富だった。アサヒグラフ表紙モデル名があるとまた楽しい。期間延長、ポロ市(1/16まで)希望。友人、知人に宣伝します。(区内80代男性) ●今から20年位前の写真も見たい。(区内50代男性) ●写真と同時にその時代に使用していた現物が展示されていること、暮らしの手帖の写真表示も電気製品の変せんも分かつたよかつた。(区内70代女性) ●写真集も安価で内容充実。1945～54。(大田区50代男性) ●イスが配置されており満足(区内10代男性) ●これからも大切に保管なさってください。(区内50代女性) ●また同じような企画をお願いします。(区内40代男性) ●64～90年代の写真展も開催して欲しいです。(区内40代男性) ●今の若い人たちにも、もっと世の中の「変化」の良さ、そして悪くなったことを知ってもらうべきですね。(区内50代女性) ●アサヒグラフの原子力ウラン開発の記事に複雑な想いが。戦後日本人は高度成長期を向える以外の道はなかつたのだろうか。生活が便利になることよりも、唯一の被爆国として平和的な貢献が出来たのではないか。たとえ貧しくても。(区内30代女性) ●ありがたうございました。(区内60代男性) ●このような企画展示の場合はボランティアの説明スタッフがいると良いのでは？(区内50代) ●現在の写真を出したら(区内60代男性) ●昭和20年代ももっと記さしてほしい。戦時のことも。(区内70代女性) ●カラー写真を探して展示すれば注目されると思う。(横浜市50代)

25 年度 主要事業報告

◎展示

タイトル	開催期間	開催日数	入館者数
特別展 1955 - 64 写真で見る高度成長期の世田谷	11月 2日(土) ~ 12月 8日(日)	31日間	4291人
季節展 蛭とさぎ草伝説	6月 29日(土) ~ 7月 28日(日)	25日間	4679人
季節展 ボロ市の歴史	12月 14日(土) ~ 2月 2日(日)	38日間	29357人

◎歴史講座

講座名および実施日	講師	参加人数
漢詩漢文鑑賞講座(全5回) 5月7日~6月4日毎週火	村山吉廣(早稲田大学名誉教授)	延270人
民俗学入門講座(全5回) 5月16日~6月13日毎週木曜日	恵津森智行(当館学芸員)	延157人
美術史講座「京都の仏像鑑賞」(全6回) 11月3日~12月8日毎週日曜日	村松哲文(駒澤大学准教授)・金子典正(京都造形芸術大学准教授)・ 下野玲子(早稲田大学講師)・真田尊光(早稲田大学講師)	延259人
近世文書解読入門講座(全8回) 2月1日~3月22日毎週土曜日	武田庸二郎(当館学芸員)	
美術史講座「世田谷の仏像・仏画」(全4回) 2月7日~2月28日毎週金曜日	鈴木泉(当館学芸員)	
やきものの見方(全4回) 3月5日~3月26日毎週水曜日	高杉尚宏(当館学芸員)	

◎野外歴史教室

コース名	実施日	講師	参加人数
次大夫堀周辺を歩く	4月3日(水)	恵津森智行(当館学芸員)	雨天中止
荏原台古墳と等々力溪谷を歩く	11月8日(金)	高杉尚宏(当館学芸員)	35人
浄真寺を訪ねる	11月7日(木)	鈴木泉(当館学芸員)	23人

《新収蔵史料》

○寄贈史料

伊万里日本地図絵皿、楊守敬筆「草書七言絶句浮雲開合晚風輕」、増山雪齋筆「山水図」、福羽美静筆「和歌 鶯馴」、頭山満筆「扁額 淡如雲」、ほか書画 24点

丸川房子(豪徳寺)

『東国名勝志』、ほか古書 11点
宇井邦夫(松原)

世田谷区内文化財写真帳 20冊
近藤順子(武蔵野市)

『江戸文化』ほか学術雑誌 45冊、書画売立目録 4冊

碓井恒雄(砧)

○寄託史料

斎藤寛齋宛賞詞(明治4年9月)

斎藤優(目黒区)

山中静逸筆「草書五言絶句 所為歸至誠」、ほか1点

佐塚大一郎(世田谷)

狩野松州筆「石井至毅肖像」、石井至凝筆「石井広昌肖像画」、同「石井房肖像画」、高島秋帆筆「草

書五行書 金言」

石井至邦(八王子市)

○購入資料

『世田谷区役所新庁舎落成記念帖』

住吉桂舟筆「徳川家齊駒場野御成の図」

『明治天皇記』

『世田谷区三軒茶屋質店旧蔵資料』

渡辺華山模写『高陽閣飲画卷』

岡本黄石筆「行書五言律詩 万古一系統」

資料館だより

No.60

発行年月日 平成26年3月31日

編集発行 世田谷区立郷土資料館

〒154-0017

世田谷区世田谷1-29-18

☎ 03-3429-4237

印刷登録番号 No.1113